

令和4年度電気技術者資質向上事業の実施結果

令和5年3月31日

「電気技術者資質向上事業」は、関係機関が実施を計画する電気技術者の資質向上を目的とする事業(以下、「資質向上事業」という。)を支援すること等により、当事業の着実な実施、さらなる普及・拡大等を通じて、電気技術者の資質の向上を図り、もって我が国の電気保安の確保に寄与することを目的に実施した。

令和4年度の事業実施結果は、次のとおり

1. 経過

令和4年4月1日(金)～10月31日(月)の間、当試験センターホームページで提案を募集したところ次の15件の申請があった。

・令和4年4月27日(水)

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により

次の2件の採択が適当とされた。

① 「第22回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会電気工事部門」

(北海道工業高等学校長会)

② 「第18回高校生ものづくりコンテスト四国大会(電気工事部門)」

(四国工業教育研究会)

・令和4年5月16日(月)

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により

次の1件の採択が適当とされた。

① 「令和4年度高校生ものづくりコンテスト中国地区大会岡山大会電気工事部門」

(岡山県高等学校工業教育協会)

・令和4年6月13日(月)

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により

次の1件の採択が適当とされた。

① 「高校生ものづくりコンテスト2022東北大会【青森大会】[電気工事部門]」

(東北地区工業高等学校長会)

・令和4年6月30日(木)

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により

次の1件の採択が適当とされた。

① 「第21回高校生ものづくりコンテスト九州大会(2022長崎大会)電気工事部門」

(長崎県立大村工業高等学校)

・令和4年7月13日（水）

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により
次の3件の採択が適当とされた。

- ① 「第22回高校生ものづくりコンテスト近畿大会（電気系部門）」
(近畿地区電気教育研究会)
- ② 「令和4年度 第21回高校生ものづくりコンテスト東海大会 電気工事部門」
(東海地区工業高等学校長教育研究会)
- ③ 「令和4年度第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト 群馬大会
兼 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門 関東予選会」
(関東甲信越地区電気教育研究会)

・令和4年8月3日（水）

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により
次の4件の採択が適当とされた。

- ① 「第3回電気工事技能競技東北大会」
(東北七県電気工事組合連合会)
- ② 「第3回電気工事技能競技北海道大会」
(北海道電気工事業工業組合)
- ③ 「全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 北信越大会」
(北信越工業校長会)
- ④ 「第28回配電工事安全技能競技会」
(北陸電気工事組合連合会)

・令和4年10月18日（火）

「電気技術者資質向上アドバイザー委員からの意見聴取」により
次の3件の採択が適当とされた。

- ① 「第36回引込および内線工事技能オリンピック大会」
(中部電気工事協力会連合会)
- ② 「第22回全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門（北信越大会）」
(公益社団法人全国工業高等学校長協会)
- ③ 「第4回電気工事技能競技全国大会」
(全日本電気工事業工業組合連合会)

2. 支援対象事業の実施結果

申請のあった15事業のうち15事業が実施された。

(1) 実施事業

- ① 「第22回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会電気工事部門」
(北海道工業高等学校長会)
令和4年5月19日（木）～20日（金）に実施 表1参照
- ② 「第18回高校生ものづくりコンテスト四国大会（電気工事部門）」
(四国工業教育研究会)
令和4年6月11日（土）に実施 表2参照

- ③ 「令和4年度高校生ものづくりコンテスト中国地区大会岡山大会電気工事部門」
(岡山県高等学校工業教育協会)
令和4年6月18日(土)に実施 表3参照
- ④ 「第21回高校生ものづくりコンテスト九州大会(2022長崎大会)電気工事部門」
(長崎県立大村工業高等学校)
令和4年7月9日(土)～10日(日)に実施 表4参照
- ⑤ 「高校生ものづくりコンテスト2022東北大会【青森大会】[電気工事部門]」
(東北地区工業高等学校長会)
令和4年7月28日(木)～29日(金)に実施 表5参照
- ⑥ 「第22回高校生ものづくりコンテスト近畿大会(電気系部門)」
(近畿地区電気教育研究会)
令和4年8月9日(火)に実施 表6参照
- ⑦ 「令和4年度第21回高校生ものづくりコンテスト東海大会電気工事部門」
(東海地区工業高等学校長教育研究会)
令和4年8月20日(土)に実施 表7参照
- ⑧ 「令和4年度第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト群馬大会
兼第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門 関東予選会」
(関東甲信越地区電気教育研究会)
令和4年8月27日(土)に実施 表8参照
- ⑨ 「第3回電気工事技能競技東北大会」
(東北七県電気工事組合連合会)
令和4年9月3日(土)に実施 表9参照
- ⑩ 「第3回電気工事技能競技北海道大会」
(北海道電気工事業工業組合)
令和4年9月10日(土)に実施 表10参照
- ⑪ 「全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 北信越大会」
(北信越工業校長会)
令和4年9月10日(土)～11日(日)に実施 表11参照
- ⑫ 「第28回配電工事安全技能競技会」
(北陸電気工事組合連合会)
令和4年10月27日(木)に実施 表12参照

- ⑬ 「第36回引込および内線工事技能オリンピック大会」
(中部電気工事協力会連合会)
令和4年11月10日(木)に実施 表13参照
- ⑭ 「第22回全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門(北信越大会)」
(公益社団法人 全国工業高等学校長協会)
令和4年11月13日(日)に実施 表14参照
- ⑮ 「第4回電気工事技能競技全国大会」
(全日本電気工事業工業組合連合会)
令和4年12月1日(木)に実施 表15参照

3. その他

令和5年度電気技術者資質向上事業募集要項は、別途、当試験センターのホームページに掲載します。

表 1

項 目	内 容
支援事業名	第22回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会電気工事部門
目 的	全道の各工業高等学校で取り組んでいる電気工事分野でのものづくりの学習効果の発表の場として、全道の工業高校生が技術・技能を競い合う北海道大会を開催し、選抜された代表者を「高校生ものづくりコンテスト全国大会」及び「若年者ものづくり競技大会」に出場させ、産業・電気安全を支える技術・技能水準の向上、若年技術・技能者の育成を図る。
実施期間	令和4年5月19日(木)～20日(金)
開催場所	北海道札幌琴似工業高等学校
主 催	北海道工業高等学校長会 北海道高等学校工業クラブ連盟
後 援	北海道教育委員会 北海道産業教育振興会 北海道の工業教育を推進する会
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 平成13年度から毎年継続して実施し、今年度で第22回目となる。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 全国工業高等学校長協会会員校に在籍している工業科の生徒で全日制、定時制各1名。</p> <p>③競技方法・競技内容 屋内配線の課題を概ね縦1,800×横1,800の作業パネルに与えられた材料で施工を行う</p> <p>④審査方法 電気工事の知識のある7名で行う。 北海道電気工事業工業組合の職員7名で審査を行った。</p> <p>⑤表彰 最優秀賞1名、優秀賞1名、優良賞2名</p>
参加者数	競技選手人数:7名 審判員人数:7名 運営事務局人数:3名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部312千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 1

第 2 2 回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会電気工事部門

(北海道工業高等学校長会)

実施日：令和 4 年 5 月 19 日 (木) ~ 20 日 (金)



表 2

項 目	内 容
支援事業名	第18回高校生ものづくりコンテスト四国大会(電気工事部門)
目 的	ものづくりコンテストを実施し、熱意ある若者を確保し、ものづくりへの意識の高揚と技術・技能の習熟向上を図るとともに、技術・技能の研鑽目標の場とし、工業教育の活性化を図る。
実施期間	令和4年6月11日(土)
開催場所	愛媛県立松山工業高等学校
主 催	四国工業教育研究会
後 援	愛媛県教育委員会 愛媛県産業教育研究会 一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会に出場する四国ブロック代表選手の選考を行う大会とする。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 各県の選抜者2名(徳島・高知・愛媛)計6名の参加。 四国の工業系学科を置く高等学校に在学する生徒。</p> <p>③競技方法・競技内容 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会課題に準じて設定。1名で作業 競技時間:150分 「競技規則」に従い、「施工図」、「施工条件」に示す電気設備の施工を想定した配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 四電工(技能五輪等出場選手)に依頼 審査の基本的視点・採点方法 a 法令等の遵守(関係法令等に適合の有無を採点) b 基本事項(競技課題との相違の有無を採点) c 一般事項(競技規則及び選手心得の遵守の有無を採点) d 作業時間(作業時間について採点) e 出来映え(出来映えについて審査委員が評価)</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、三位</p>
参加者数	競技選手人数:6名 審判員人数:5名 運営事務局人数:9名 その他:8名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部103千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表2

第18回高校生ものづくりコンテスト四国大会（電気工事部門）

（四国工業教育研究会）

実施日：令和4年6月11日（土）



表 3

項 目	内 容
支援事業名	令和4年度高校生ものづくりコンテスト中国地区大会岡山大会電気工事部門
目 的	中国地区5県の各工業高校で取り組んでいるものづくりの電気工事分野において、日々の学習で積み上げた技術・技能を競い合う場として中国地区大会を開催する。中国地区大会での上位入賞者を「高校生ものづくりコンテスト全国大会」ならびに「若年者ものづくり競技大会」に出場させ、産業・電気安全を支える技術・技能水準の向上、若年技術技能者の育成を図る。
実施期間	令和4年6月18日(土)
開催場所	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岡山支部 岡山職業能力開発促進センター(ポリテクセンター岡山)
主 催	岡山県高等学校工業教育協会
後 援	一般財団法人電気技術者試験センター 岡山県電気工事工業組合
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 1年に1回、中国地区で開催されている。本年度で17回目となる。今後も継続事業として計画している。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 中国地区で、全国工業高等学校長協会会員校に在籍している全日制・定時制工業科の生徒で、各県予選で2位以上になった生徒。ただし、開催県は4位以上の生徒。</p> <p>③競技方法・競技内容 縦1,820×横1,820の作業パネルに、与えられた屋内配線図と材料を用いて、電気設備の施工を想定した配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 (株)中電工職員(技能五輪指導員)、(株)戸川電工職員、 (有)東洋電気工業所職員、(株)ムラオ電設職員、三恭電設(株)職員、 (株)高木電機工業職員、(有)中西電気工事職員、(株)東陽電気職員 (審査の基本的視点・採点方法) ・保安面から見た施工状況 ・欠陥項目ごとの減点方式 ・美観も含めた施工技術 ・審査対象は全ての工事が完成しているもの ・安全作業、安全態度 ・点灯試験の結果、不点灯、短絡したものは大幅に減点する</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、三位</p>
参加者数	競技選手人数:11名 審判員人数:8名 運営事務局人数:42名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部288千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 3

令和4年度高校生ものづくりコンテスト中国地区大会岡山大会電気工事部門

(岡山県高等学校工業教育協会)

実施日：令和4年6月18日(土)



表 4

項 目	内 容
支援事業名	第21回高校生ものづくりコンテスト九州大会(2022長崎大会)電気工事部門
目 的	わが国の産業界を支え発展させるためには、ものづくりの技術・技能の継承を確固たるものとし、熱意ある若者を確保することが重要である。そこで、工業教育をととして有為な人材を育成するため、高校生ものづくりコンテストを実施し、ものづくりの意識の高揚と技術・技能の向上を図るとともに、本大会を九州各県の工業高校生の研鑽目標の場とし、工業教育の活性化を図る。
実施期間	令和4年7月9日(土)～10日(日)
開催場所	長崎県立大村工業高等学校
主 催	九州地区工業高等学校長協会
後 援	長崎県工業クラブ連盟 長崎県産業教育振興会 大村市
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 平成13年より継続して実施し、今年度で21回となる。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 九州8県において県の代表権を取った選手8名で行い、全国大会出場代表を決定する選考会である。</p> <p>③競技方法・競技内容 高校生ものづくりコンテスト全国大会の課題に準じて設定(1名で作業) 競技時間:150分「競技規則」に従い、電気設備を想定した配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 審査員は4名で構成している。審査員として(株)九電工から3名、徳永機電工業から1名で審査を行う。 審査の基本的観点・採点方法 ・保安面から見た施工状況 ・美観を含めた施工技術 ・安全作業、作業態度 ・欠陥項目ごとの減点方式 ・審査対象は、すべての工事が完成しているもの ・工事未完成のものは、審査対象外 ・点灯試験の結果、不点灯、短絡したものは失格</p> <p>⑤表彰 最優秀賞、優秀賞、優良賞</p>
参加者数	競技選手人数:8名 審判員人数:4名 運営事務局人数:20名 その他:30名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部428千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 4

第 21 回高校生ものづくりコンテスト九州大会（2022 長崎大会）電気工事部門

（長崎県立大村工業高等学校）

実施日：令和 4 年 7 月 9 日（土）～ 10 日（日）



表 5

項 目	内 容
支援事業名	高校生ものづくりコンテスト2022東北大会【青森大会】[電気工事部門]
目 的	東北地区の工業系高校に在籍する生徒の電気工事に関する技術・技能の向上と相互交流を図ることを目的としている。
実施期間	令和4年7月28日(木)～29日(金)
開催場所	青森県立青森工業高等学校
主 催	東北地区工業高等学校長会
後 援	青森県教育委員会 青森県産業教育振興会 一般社団法人日本電気協会東北支部 株式会社ユアテック
協 賛	青森県高等学校長協会工業部会 青森県産業教育振興会 一般財団法人電気技術者試験センター 学校法人片柳学園
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 平成13年の第1回高校生ものづくりコンテスト全国大会[電気工事部門]から毎年実施している大会であり、今回の大会は青森県で実施する。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 東北6県において県の代表権を取った選手6名と開催県枠1名の計7名が出場できる。</p> <p>③競技方法・競技内容 高校生ものづくりコンテスト全国大会の課題に準じた内容を東北大会においても行う。 競技時間150分で、1名で完成させる個人競技とする。 「競技規則」に従い、「配線図」・「施工条件」に示す電気設備を想定した配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 審査員は2名で構成し、外部技術審査員として日本電気協会東北支部へ審判員を依頼し、株式会社ユアテックの技術者が審査を行う。 審査の基本的観点 (1)保安面から見た施工状況 (2)美観を含めた施工技術 (3)安全作業、作業態度 採点方法 (1)欠陥項目ごとの減点方式 (2)審査対象は、すべての工事が完成しているもの (3)工事未完成のものは、審査対象外 (4)点灯試験の結果、不点灯、短絡したものは失格</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、三位</p>
参加者数	競技選手人数:7名 審判員人数:9名 運営事務局人数:7名 その他:25名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部311千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表5

高校生ものづくりコンテスト2022東北大会【青森大会】〔電気工事部門〕

(東北地区工業高等学校長会)

実施日：令和4年7月28日(木)～29日(金)



表 6

項 目	内 容
支援事業名	第22回高校生ものづくりコンテスト近畿大会(電気系部門)
目 的	大会を通して工業高等学校生徒の「ものづくり」に対する意識を高め、電気・電子の技術・技能の向上を図るとともに、今後の電気・電子教育の資質向上を目指す。
実施期間	令和4年8月9日(火)
開催場所	株式会社きんでん きんでん学園
主 催	近畿地区電気教育研究会
後 援	近畿工業高等学校長協会 滋賀県教育委員会
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 公益社団法人全国工業高等学校長会協会では、各高等学校で取り組んでいるものづくりの学習効果の発表の場として、年に一度、全国の高校生が一堂に会して、技術・技能を競い合う全国的な大会(高校生ものづくりコンテスト全国大会)を企画し、過去21回実施した。この近畿地区大会は全国大会へ出場する代表選手の選考会になっている。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 本大会は近畿二府四県の工業(電気系)を学習する高校生で予選会を実施し、各府県代表の6選手で近畿大会を行い、全国大会出場代表選手を決定する選考会である。</p> <p>③競技方法・競技内容 電気系部門の中の「電気工事部門」として「施工図」、「施工条件」、「電灯展開図」に示す配線工事を選手1名による指定時間内(120分)に行う技能技術競技である。</p> <p>④審査方法 特別審査員として株式会社きんでんより1名と近畿地区の工業高等学校で電気工事を指導する教員8名が審査員として審査する。 審査の基本的観点 ・関係法令等に適合した施工方法であること。 ・美観を含めた施工状況であること。 ・安全作業、作業態度に注意して施工していること。 採点方法 ・工事未完成、施工条件違反は審査対象外とする。 ・点灯試験の結果、不点灯、短絡したものは失格とする。 ・各項目を減点方式で採点して、減点の少ない者から上位とする。</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、第三位</p>
参加者数	競技選手人数:6名 審判員人数:9名 運営事務局人数:6名 その他:35名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部153千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 6

第 2 2 回高校生ものづくりコンテスト近畿大会（電気系部門）

（近畿地区電気教育研究会）

実施日：令和 4 年 8 月 9 日（火）



表 7

項 目	内 容
支援事業名	令和4年度 第21回高校生ものづくりコンテスト東海大会 電気工事部門
目 的	全国工業高等学校長協会主催「高校生ものづくりコンテスト全国大会」および中央職業能力開発協会主催「若年者ものづくり競技大会」の予選を兼ねた、東海地区の4県から選抜された選手が技術・技能を競い合う大会の実施により、東海地区工業高校生ものづくり技術・技能の一層の向上を図る。
実施期間	令和4年8月20日(土)
開催場所	株式会社トーエネック教育センター
主 催	東海地区工業高等学校長教育研究会
後 援	一般社団法人日本電設工業協会東海支部 一般社団法人愛知電業協会 一般社団法人三重電業協会 一般社団法人岐阜電業協会 一般社団法人静岡県電業協会
協 賛	株式会社トーエネック パナソニック株式会社エレクトリックワークス社 株式会社ニチフ 一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 平成14年から毎年開催され、今回で第21回目の大会である。 東海地区に属する4県が順番で大会運営を行い、今回は静岡県が担当。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 東海地区工業高等学校長教育研究会に所属する高校生による各県の予選会を実施し、各県上位2名、開催県上位3名の合計9名が参加。</p> <p>③競技方法・競技内容 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会の競技課題に準ずる。 概ね、縦1,820mm×1,820mm(床上約300mm)の垂直パネルに、「競技規則」に従い、「施工図」および「施工条件」に示す配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 審査員は中部電力パワーグリッド株式会社及び株式会社トーエネックの技能五輪コーチ及び技能五輪選手経験のある6名により、審査基準に基づき審査を実施。 ・法令等の遵守、関係法令等の適合の有無 ・競技課題との相違の有無 ・作業時間、作業態度 ・持ち点100点からの減点方式</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、第三位</p>
参加者数	競技選手人数:9名 審判員人数:6名 運営事務局人数:16名 その他:26名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部150千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 7

令和4年度 第21回高校生ものづくりコンテスト東海大会電気工部門

(東海地区工業高等学校長教育研究会)

実施日：令和4年8月20日(土)



表 8

項 目	内 容
支援事業名	令和4年度第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト群馬大会 兼 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門 関東予選会
目 的	電気系学科の高校生を対象に、電気工事コンテストを行うことにより電気工事の基礎 応用の技術向上を図るとともに、電気技術者の育成を図ることを目的とする。
実施期間	令和4年8月27日(土)
開催場所	太田市休泊行政センター
主 催	関東甲信越地区電気教育研究会
後 援	関東地区工業高等学校長会 群馬県教育委員会 群馬県電気工事工業組合 一般社団法人東京電業協会
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 平成13年から毎年実施している(令和2年はコロナ禍により中止)大会であり、 関東地区一都六県と山梨県が順番に開催地として大会運営に当たる。 今大会は群馬県で実施する。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 関東甲信越地区電気教育研究会会員校に在籍する生徒で、関東地区一都 六県と山梨県の予選会を経て各都県で推薦された各都県2名の代表による。</p> <p>③競技方法・競技内容 高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門の課題に準じて設定。 競技時間120分。 「競技規則」に従い「施工図」、「施工条件」に示す電気設備の施工を想定した 配線工事を行う。</p> <p>④審査方法 審査員は、電気工事の現場に従事しており、群馬県電気工事工業組合の 中において指導的立場にある者8名により、審査基準に基づき審査を実施。 (審査の基本的視点・採点方法) ・保安面から見た施工状況 ・美観を含めた施工技術 ・安全作業、作業態度 ・欠陥項目ごとの減点方式 ・審査対象は、すべての工事が完成しているもの ・工事未完成のものは、審査対象外 ・点灯試験の結果、不点灯、短絡したものは失格</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、三位</p>
参加者数	競技選手人数:16名 審判員人数:8名 運営事務局人数:19名 その他:1名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部200千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 8

令和4年度第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト群馬大会
兼 第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門 関東予選会

(関東甲信越地区電気教育研究会)

実施日：令和4年8月27日(土)



表 9

項目	内 容
支援事業名	第3回電気工事技能競技東北大会
目的	東北七県電気工事組合連合会に所属する電気工事技術者が、電気工事に於ける技術と保安の確保を更に向上させるとともに、次世代を担う若者に電気工事の素晴らしさを体感する場を創出し、ライブ配信することで、東北に於ける電気工事業界の存在を広く理解して頂くことを目的とする。 また、全日本電気工事業工業組合連合会が主催する「第4回電気工事技能競技全国大会(令和4年12月1日開催)」に向けた東北七県ブロック総括練習の位置づけとしての大会として開催する。
実施期間	令和4年9月3日(土)
開催場所	青森:八戸電気工事業協同組合1階、岩手:株式会社平成電設 練習場、秋田:秋田技術専門学校 訓練センター、宮城:仙台電気工事組合会館3階、本部:東北七県電気工事組合連合会、山形:山形電気工事協同組合3階 福島:有限会社鹿山電気商会、新潟:新潟県電気工事会館4階
主催	東北七県電気工事組合連合会
協賛	一般財団法人電気技術者試験センター 株式会社トベ 全国設備業IT推進会 ミツワ電機株式会社 岡田電気産業株式会社 バナー広告掲載協力会社80社
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 今年度を第3回とし、隔年で実施を予定している大会であり、新潟県を含む東北七県(以下、東北七県とする。)が順番に開催地として大会運営に当たっていたが、今回大会は、コロナ禍もあり、リモートで各7県会場を繋ぎ、ライブ配信を試みた。次回大会以降は、一堂に会して行う現地開催継続にするかリモートライブ配信継続するか、今大会を踏まえて再検証していく。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 東北七県の各県電気工事(業)工業組合に所属する組合員(組合員企業の従業員を含む)で、第一種電気工事士または第二種電気工事士の有資格者であり、各県電気工事(業)工業組合理事長の推薦を受けた者による。選手数は、7名(各県工組より1名)とする。また、弊会理事長の推薦を受けた「第4回電気工事技能競技全国大会」女性の部に出場する者を1名含め、全体で8名とする。</p> <p>③競技方法・競技内容 筆記競技:試験時間は、30分とする。 ・第二種電気工事士試験相当の中から施工方法、配線図及び図記号、法規・法制等実務に沿った設問(四者択一方式及び記述式)を出題(設問数は15問以内) ・下記のうちから文章問題(文章穴埋め択一選択式)を1問出題 i. 現在業界の問題となっている事項や全日電工連が取り組んできた事業に関する設問 ii. 危険予知、安全作業に関する設問 iii. その他関連する事項についての設問 ※学科競技の出題内容については、事前公表は行いません。</p> <p>技能競技(実技):一般の部については、競技時間は180分。 女性の部については、競技時間は150分。ただし、特例で15分の延長を認める。 ・競技方法 選手1名により課題に基づき競技パネル(幅1,820mm×高さ1,820mm)に作品を完成させる。 ・課題 「第4回電気工事技能競技全国大会」の課題に準じて設定する。</p> <p>④審査方法 各県審査員1～2名とする。(本部宮城4名、秋田・新潟2名、青森・岩手・山形・福島1名で実施した。)各県ポリテクセンターの学識経験者・有識者に依頼する。技術基準への適合性について確認する。公平を期するため、組合関係でなく、外部の学識経験者・有識者で構成する審査委員で定めた採点に係る基準(採点項目・採点方法)に基づき採点し、講評を頂く。</p> <p>⑤表彰 順位付けは行わず、参加賞を贈った。</p>
参加者数	競技選手人数:8名 審判員人数:12名 運営事務局人数:2名 委員:28名 その他:296名(HPアクセス数)
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部1,527千円を支援

第3回電気工事技能競技東北大会

(東北七県電気工事組合連合会)
実施日：令和4年9月3日(土)



表 10

項 目	内 容
支援事業名	第3回電気工事技能競技北海道大会
目 的	北海道電気工事業工業組合に所属する電気工事技術者の技術水準の向上および電気設備における保安の確保を図る、電気工事業の発展に資するため競技大会を実施する。
実施期間	令和4年9月10日(土)
開催場所	北海道立札幌高等技術専門学院
主 催	北海道電気工事業工業組合
後 援	経済産業省北海道産業保安監督部 北海道 北海道電力ネットワーク株式会社
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 本事業の開催頻度は、電気工事技能競技全国大会(隔年開催)に合わせて継続実施する。開催エリアは、北海道全域とする。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 「一般の部(11名)」及び「女性の部(2名)」 北海道電気工事業工業組合の所属組合員のうち、第一種電気工事士または第二種電気工事士の資格所有者で、各協同組合理事長の推薦を得たもの。 「高校生の部(1名)」 全国工業高等学校長協会北海道代表校からの推薦を受けた者</p> <p>③競技方法・競技内容 筆記競技: 第二種電気工事士筆記試験の出題レベルに相当する問題を出題。 試験時間30分。 技能競技: 電気工事技能競技全国大会の課題に準じて設定。 「一般の部」競技時間180分、「女性の部」競技時間150分 「高校生の部」競技時間120分</p> <p>④審査方法 ・審査員は、第一種電気工事士以上の資格所有者で、外部技術審査員(北海道職業能力開発大学校、北海道、北海道電力ネットワーク株式会社)10名と内部審査員2名で、審査基準に基づき審査を実施。 ・特別審査員は、国、北海道の2名。</p> <p>⑤表彰 「一般の部」金賞、銀賞、銅賞 「女性の部」最優秀賞 「高校生の部」激励賞</p>
参加者数	競技選手人数: 14名 審判員人数: 16名 運営事務局人数: 61名 その他: 118名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部1,776千円を支援

第 3 回電気工事技能競技北海道大会

(北海道電気工事業工業組合)

実施日：令和 4 年 9 月 10 日 (土)



表 11

項目	内容
支援事業名	全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 北信越大会
目的	公益社団法人全国工業高等学校長協会の主催により、各高等学校で取り組んでいる、ものづくりの学習効果の発表の場として、全国の高校生が一堂に会して、技術・技能を競い合う全国的な大会に向けて、北信越ブロックの各県より選抜された選手が、技術・技能を競い合い、地域の若年技術者の育成を図ることを目的としている。また全国大会出場の見込会として位置づけられている。
実施期間	令和4年9月10日(土)～11日(日)
開催場所	長野県工科短期大学校
主催	全国工業高等学校長協会 北信越工業高等学校長会
後援	長野県教育委員会
協賛	一般財団法人電気技術者試験センター 株式会社松本鉄工所 株式会社小松製作所
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 毎年、北信越ブロック(新潟、富山、石川、福井、長野)の5県が持ち回りで開催している。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 各県の電気系の工業高校生が、毎年開催される県大会(県予選)により、上位2名が選抜され出場する。</p> <p>③競技方法・競技内容 種目は全て技能競技である。 高校生ものづくりコンテスト電気工事部門全国大会の課題に準じて設定。 競技時間150分。 「競技規則」に従い、「施工図」、「施工条件」に示す屋内配線の施工を正確に行う。</p> <p>④審査方法 審査員構成:電気工事の経験を持ち指導員として従事する外部技術審査員((株)トーエネック長野営業所の技術者)及び、技能五輪指導者((株)トーエネック教育センター職員)を含めた計5名</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、三位2名</p>
参加者数	競技選手人数:8名 審判員人数:5名 運営事務局人数:15名 その他:10名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部314千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 1 1

全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 北信越大会

(北信越工業校長会)

実施日：令和4年9月10日(土)～11日(日)



表 12

項 目	内 容
支援事業名	第28回配電工事安全技能競技会
目 的	配電工事安全技能教育の一環として、工事技能、安全作業及びお客さま対応の習得向上を図ることを目的とする。
実施期間	令和4年10月27日(木)
開催場所	北陸電力株式会社研修センター
主 催	北陸電気工事組合連合会
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 年1回、平成6年より毎年開催(R元年は中止)、今年度が第28回目。 北陸電力送配電株式会社の配電工事を実施している北陸三県の外線・引込線施工者を対象。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 外線工事 各県電工組より1チーム3名 計3チーム 引込線工事 各県電工組より1チーム3名 計3チーム ・参加資格要件 北陸電力送配電株式会社の配電工事認定施工者 <p>③競技方法・競技内容 外線工事: 飛来物接触による高圧線断線と不良CF遮断器復旧工事 引込線工事: 引込線無停電張替工事(直接引込・並行架線工法)</p> <p>④審査方法 審査委員長・副委員長: 連合会配電委員(県電工組の電力部長) 各1名 審査員: 安全管理指導員及び外線工事作業班長 各県4名 計12名</p> <p>⑤表彰 外線工事: 最優秀賞、優秀賞、努力賞 引込線工事: 最優秀賞、優秀賞、努力賞</p>
参加者数	競技選手人数: 18名 審判員人数: 14名 運営事務局人数: 13名 その他: 199名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部718千円を支援

第 2 8 回配電工事安全技能競技会

(北陸電気工事組合連合会)

実施日：令和 4 年 1 0 月 2 7 日 (木)



表 13

項目	内容
支援事業名	第36回引込および内線工事技能オリンピック大会
目的	中部電力パワーグリッド(株)管内の各県協会6×2チーム計12チームの編成により、選抜された選手が技能オリンピック大会を通じ、所属会員の電気工事技術ならびに技能の向上を図り、電気設備における公共保安の確保とお客さまサービスの向上に資することを目的とする。
実施期間	令和4年11月10日(木)
開催場所	中部電力(株)人財開発センター配電研修所内線実習館
主催	中部電気工事協会連合会
後援	中部電力パワーグリッド株式会社
協賛	一般財団法人中部電気保安協会 公益社団法人日本電気技術者協会中部支部 電気安全中部委員会・電気新聞中部総局 一般財団法人電気技術者試験センター
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 大会頻度:隔年毎開催(前回大会令和元年11月) 継続事業:本大会は36回大会である。 開催エリア:愛知県・岐阜県・三重県・長野県・静岡県(西部)</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 ・名古屋引込工事センターが下請負契約または協力工事店共同受注契約を締結した工事店および静岡・三重・岐阜・長野県・愛知県東部電気工事協会が共同受注契約を締結した電気引込工事センターと下請負契約または協力工事店共同受注契約を締結した工事店の、店主またはその従業員であって、第一種または第二種電気工事士免状の取得者で、昇降柱訓練受講者であること。 ・過去10年以内の本大会で総合第1位に入賞した選手は除くものとする。 1チームは3名の選手で構成し、うち1名を作業責任者とする。</p> <p>③競技方法・競技内容 競技は、実技と学科テストの2本立とする。 1. 実技 ア. 課題の範囲…引込、需給装置および屋内・屋側配線に関する工事とし、施工証明書のお客さまへの引渡しについても課題対象とする。 イ. 出題方式…お客さまから申し込まれた新增設工事を対象とする。 ウ. 実技時間…組作業にて実働1時間50分程度で仕上げる内容とする。 2. 学科 ア. 課題の範囲…第二種電気工事士として必要な施工技術・技能に直結した問題とする。 イ. 出題方式…択一式で出題数30問とする。 ウ. 解答時間…30分とする。</p> <p>④審査方法 審査員:中部電力パワーグリッド(株)検査担当職員 出来映え審査:(来賓)中部近畿産業保安監督部・中部電気保安協会他 安全品質委員</p> <p>⑤表彰 総合入賞 優勝、準優勝、第三位、第四位、第五位、第六位 実技賞 第一位、第二位、第三位 安全賞 第一位、第二位、第三位 学科賞 第一位3名、第四位2名</p>
参加者数	競技選手人数:36名 審判員人数:58名 運営事務局人数:9名 その他:152名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部1,180千円を支援

表 13

第 36 回引込および内線工事技能オリンピック大会

(中部電気工事協力会連合会)

実施日：令和 4 年 11 月 10 日 (木)

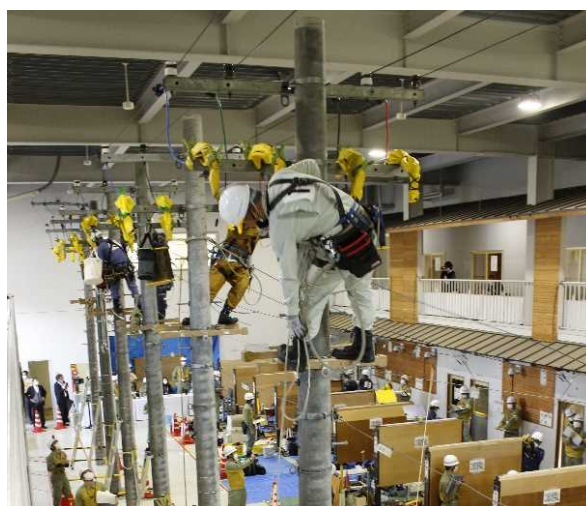
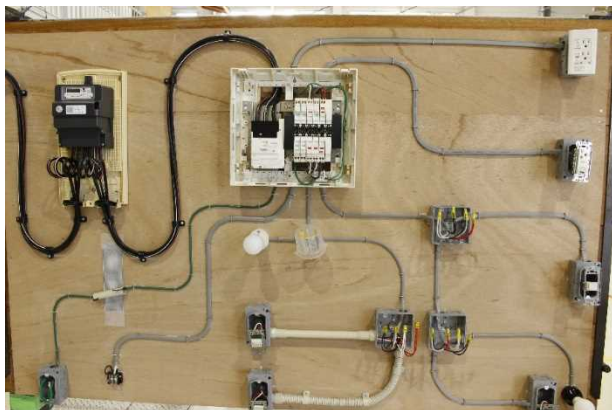


表 14

項 目	内 容
支援事業名	第22回全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門(北信越大会)
目 的	公益社団法人全国工業高等学校長協会の主催により、各高等学校で取り組んでいる、ものづくりの学習効果の発表の場として、全国の高校生が一堂に会して、技術・技能を競い合う全国的な大会である。全国各ブロックより選抜された選手が、技術・技能を競い合い、地域の若年技術者の育成を図ることを目的としている。
実施期間	令和4年11月12日(土)～13日(日)
開催場所	長野県工科短期大学校
主 催	公益社団法人全国工業高等学校長協会
後 援	文部科学省 経済産業省 厚生労働省 (公財)産業教育振興中央会
協 賛	一般財団法人電気技術者試験センター 株式会社松本鉄工所 株式会社小松製作所
実施内容	<p>①大会競技の開催方法 毎年、全国9ブロック(北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州)の9ブロックが持ち回りで開催している。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 各ブロックの電気系の工業高校生が、毎年開催されるブロック大会(ブロック予選)により、上位1名が選抜され、また、開催ブロックより、地元開催枠1名の計10名が出場する。</p> <p>③競技方法・競技内容 種目は全て技能競技である。 高校生ものづくりコンテスト電気工事部門全国大会の課題に準じて設定。 競技時間150分。 「競技規則」に従い、「施工図」、「施工条件」に示す屋内配線の施工を正確に行う。</p> <p>④審査方法 審査員構成:電気工事の経験を持ち指導員として従事する外部技術審査員((株)トーエネック長野営業所の技術者)及び、技能五輪指導者と競技者((株)トーエネック教育センター職員)を含めた計11名</p> <p>⑤表彰 優勝者、準優勝者、第三位</p>
参加者数	競技選手人数:10名 審判員人数:13名 運営事務局人数:17名 その他:20名
支援の内容	開催経費のうち、設営費・運営費等の一部642千円を支援
その他	試験センターより、特別賞として上位2名に賞状、副賞を授与

表 1 4

第 2 2 回全国高校生ものづくりコンテスト電気工事部門（北信越大会）

（公益社団法人 全国工業高等学校長協会）

実施日：令和 4 年 1 1 月 1 2 日（土）～ 1 3 日（日）



表 15

項 目	内 容
支援事業名	第4回電気工事技能競技全国大会
目 的	全日本電気工事業工業組合連合会(以下、全日電工連)に所属する電気工事技術者を中心とし、その電気工事技術者の資質ならびに技術水準の向上を通じ、お客様満足と安全・安心に電気をお届けするための電気保安の確保を担う電気工事業界の発展に寄与すること、並びに女性電気工事士の活躍の場を広げ男女共同参画社会の実現に寄与すると共に、電気工事業界の将来の担い手育成、入職促進、および教育活動の振興の一助とすることを目的とする。
実施期間	令和4年12月1日(木)
開催場所	横浜アリーナ
主 催	全日本電気工事業工業組合連合会
後 援	経済産業省 国土交通省 文部科学省 神奈川県教育委員会 横浜市 公益社団法人全国工業高等学校長協会
協 賛	一般社団法人日本電気協会 一般財団法人電気技術者試験センター 一般財団法人電気工事技術講習センター 全日本電設資材卸業協同組合連合会 株式会社アイチコーポレーション 因幡電機産業株式会社 河村電器産業株式会社 共立電気計器株式会社 積水化学工業株式会社 DXアンテナ株式会社 テンパール工業株式会社 東芝ライテック株式会社 株式会社西田製作所 ニチコン株式会社 株式会社ニチフ 日東工業株式会社 ネグロス電工株式会社 パナソニック株式会社エレクトリックワークス社 マサル工業株式会社 三菱電機株式会社 株式会社アサヒプリンティング 株式会社ELEFAメディア 一般社団法人全国設備業DX推進会 損害保険ジャパン株式会社 住友生命保険相互会社 大樹生命保険株式会社 オリックス自動車株式会社 東芝保険サービス株式会社 株式会社オーム社 東武トップツアーズ株式会社 株式会社全日出版社 株式会社全日電工連総合サービス 以上、5団体、27企業
	<p>①大会競技の開催方法 本全国大会は、本年度が第4回の実施であるが、今後も技術の継承と電気保安確保の観点より、継続実施を計画している。なお、開催地については、当分の間、東京での開催を計画しているが、地方ブロックでの開催も計画している。</p> <p>②参加選手の構成及び参加資格要件等 一般の部 全日電工連の所属組合員(組合員企業の従業員を含む。)で、第一種電気工事士又は第二種電気工事士の有資格者であり、各電気工事(業)工業組合(以下、各電工組)の理事長(ブロック連合会加算枠出場者にあつては、ブロック電気工事組合連合会 会長(理事長))の推薦を受けた者。非組合員で、かつ、第一種電気工事士又は第二種電気工事士の有資格者も参加を可とした。 女性の部 全日電工連の所属組合員(組合員企業の女性従業員を含む。)で、第一種電気工事士又は第二種電気工事士の有資格者であり、ブロック電気工事組合連合会会長(理事長)の推薦を受けた者。非組合員で、かつ、第一種電気工事士又は第二種電気工事士の有資格者も参加を可とした。 高校生の部 (公社)全国工業高等学校長協会(以下、全工協会)会員校に在籍している生徒であること。全工協会が組織する全国9つある地区校長協会から推薦された者。但し、歴代の当大会高校生の部最優秀賞受賞者は出場不可とする。</p>

③競技方法・競技内容

(ア)一般の部

①学科競技(30分)実施日:2022年11月30日(水)※非公開

a.第二種電気工事士試験相当の中から、施工方法、配線図及び図記号、法令等実務に沿った設問(四者択一式及び記述式)を出題(設問数は15問以内)

b.下記のうちから、文章問題(文章穴埋め択一選択式)を1問

出題

i.現在業界の問題となっている事項や全日電工連が取り組んできた事業に関する設問

ii.危険予知、安全作業に関する設問

iii.その他関連する事項についての設問

※学科競技の出題内容については、事前公表はしない。

②技能競技(実技)(180分)実施日:2023年12月1日(木)

a.競技方法

選手1名により課題に基づき競技パネル(幅1820mm×高さ1820mm)に作品を完成させる。

b.課題

電気工事の必須技術・技能に、時代のトレンドを加味した課題とした。

課題は事前公表(2022年4月21日)、並びに最終発表(2022年11月上旬)を行い、大会当日の課題変更はなしとした。

(イ)女性の部

①学科競技(30分)実施日:2022年11月30日(水)※非公開

a.第二種電気工事士試験相当の中から、施工方法、配線図及び図

記号、法規・法令等実務に沿った設問(四者択一式及び記述式)を出題(設問数は15問以内)

b.下記のうちから、文章問題(文書穴埋め択一選択式)を1問

出題

i.現在業界の問題となっている事項や全日電工連が取り組んできた事業に関する設問

ii.危険予知、安全作業に関する設問

iii.その他関連する事項についての設問

※学科競技の出題内容については、事前公表はしない。

②技能競技(実技)(150分):実施日:2022年12月1日(木)

a.競技方法

選手1名により課題に基づき競技パネル(幅1820mm×高さ1820mm)に作品を完成させる。

b.課題

電気工事の必須技術・技能に、時代のトレンドを加味した課題とした。課題は事前公表(2022年4月21日)、並びに最終発表(2022年11月上旬)を行い、大会当日の課題変更はなしとした。

(ウ)高校生の部

①学科競技(30分)実施日:2022年11月30日(水)※非公開

a.第二種電気工事士試験相当の設問(4者択一方式等)、

電気工事の業務にかかわる設問

b.「電気工事現場スタートブック」(全日電工連発行)の内容に関する設問

※a,bより合計10門程度出題

※上記bの冊子は全日電工連より事前配布をした。

※学科競技の出題内容については、事前公表はしない

②技能競技(実技)(120分):実施日:2022年12月1日(木)

a.競技方法

選手1名により課題に基づき競技パネル(幅1820mm×高さ1820mm)に作品を完成させる。

b.課題

電気工事の必須技術・技能を中心とした課題とした。

課題は、【高校生の部】選手募集要項に事前公表課題を添付のうえ送付し、最終課題発表(2022年11月上旬)を行い、大会当日の課題変更はなしとした。

実施内容

④審査方法
 技術基準への適合性について確認する。公平を期するため、組合関係でなく、外部の学識経験者・有識者で構成する審査委員により、技能競技委員会審査部会(委員構成:審査員他)で定めた採点に係る基準(採点項目・採点方法)に基づき採点し、順位を決定した。

⑤表彰

①一般の部

経済産業大臣賞 1名(表彰状)

※最優秀成績者(=金賞受賞者)に対して贈呈

連合会賞

金賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、「JAPAN e SKILL CHAMPION」称号盾、副賞)

銀賞 2名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

銅賞 3名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

敢闘賞 4名(表彰状、副賞)

参加賞 出場選手全員に記念品(AIスピーカー)及びマルチメーターを贈呈。

感謝状 選手の所属組員(所属企業代表者)に感謝盾を贈呈。

安全作業大賞 1名(表彰状、表彰盾)

※(一社)日本電気協会より、安全作業面の最優秀者に対して贈呈

②女性の部

国土交通大臣賞 1名(表彰状)

※最優秀成績者(=金賞受賞者)に対して贈呈

連合会賞

金賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、「JAPAN e SKILL LADY'S CHAMPION」称号盾、副賞)

銀賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

銅賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

参加賞 出場選手全員に記念品(AIスピーカー)及びマルチメーターを贈呈。

感謝状 選手の所属組員(所属企業代表者)に感謝盾を贈呈。

③高校生の部

文部科学大臣賞 1名(表彰状)

※最優秀成績者(=金賞受賞者)に対して贈呈

連合会賞

金賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、「JAPAN e SKILL JUNIOR CHAMPION」称号盾、副賞)

銀賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

銅賞 1名(表彰状、メダル、トロフィー、副賞)

参加賞 出場選手全員に記念品(AIスピーカー)及びマルチメーターを贈呈。

感謝状 選手の在籍学校(在籍学校長)に感謝盾を贈呈

参加者数

競技選手人数:一般の部53名、女性の部9名、高校生の部9名
 審判員人数:審査員35名、技能競技委員21名、競技員35名
 その他:来賓76名、協賛企業等291名、電気系教育訓練機関78名、
 報道18名、組合関係者1,862名

支援の内容

開催経費のうち、設営費・運営費等の一部2,000千円を支援

第 4 回 電気工事技能競技全国大会

(全日本電気工事業工業組合連合会)

実施日：令和 4 年 1 2 月 1 日 (木)

